



たわばな

一般社団法人
日本ボーイスカウト
静岡県連盟

420-0839
静岡市葵区鷹匠1-12-1
静鉄鷹匠青葉園ビル305号



富士宮地区キャンポリー&ビーバー・カブデー 8月12日(火) 富士宮市上井出公園にて



清水地区營火点灯



伊豆地区合同くまキャンプ



日蓮宗スカウトキャンポリー

CONTENTS

第4回日蓮宗スカウトキャンポリー	2	富士地区2025ラトビア友好プロジェクト	10
磐田地区磐田第3団合同キャンプ	4	静岡地区ボーイ隊「まなBO-SAI」	11
伊豆地区合同くまキャンプ 「みんなで作るスカウト村」	5	ビーバーだより・カブつうしん	12
富士宮地区キャンポリー&ビーバー・カブデー	6	ボーイ通信・ローバー通信	13
清水地区・地区キャンポリー2025	8	指導者だより	14
浜松東地区浜松第30団「カブ隊!海に出る!」	9	マスコミコーナー	14
		受章者紹介	15



第4回 日蓮宗スカウトキャンポリー

令和7年8月15日(金)~17日(日)

in伊豆大仁瑞泉郷



静岡第14団 カブ隊 隊長 德澄 大輔

第25回世界スカウトジャンボリー、第3回東海キャンポリーに関わった者として、カブスカウトたちにも大規模野営の面白さや楽しさの一端を知ってもらい、ボーイ隊への憧れや期待を醸成してもらいたいと、かねてより考えていました。ひょんなきっかけから今回の日蓮宗キャンポリーのお話をいただき、「これだ!」と即決で参加を申し込みました。

ボーイ隊は野営生活でしたが、カブ隊以下も舎宮で参加が可能でした。2泊3日のキャンポリーは、全体の活動もさることながら部門別の活動も用意されており、大規模なキャンプファイアや持ち寄りパーティ、またカブ隊だけのポイントラリーなど、カブスカウトたちは全力で楽しんでいる様子でした。原隊キャンプであれば、食材を自ら調理して食事を楽しますが、今回は食事が提供されるスタイルであったため活動に専念できたばかりか、その



提供が「ベンチャー食堂」としてスカウト自身によって行われた点は、カブスカウトたちに「自分たちもいつかこうなりたい」と思える“カッコイイお兄さん・お姉さん”的姿を示す効果があり、まさに私が期待していたものでした。また、活動や食事を通じて原隊以外のスカウトと交流し「新しい友達」ができたことも、キャンポリーならではの醍醐味でした。

スカウトたちは忘れられない楽しい夏の思い出ができたことでしょう。反面、今後の原隊の活動が「キャンポリーほど面白くない」と言われないよう、ワクワクする活動を継続していかなければならないというプレッシャーも感じています(笑)。

最後になりましたが、この場をお借りして、このような素晴らしい機会を提供してくださった日蓮宗スカウト連絡協議会様、東京都太田第17団様、そして共に活動頂いた東京都足立第15団、静岡県富士第2団・第4団・第8団・第10団・第11団の関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。





静岡第14団 カブ隊 漆畠 咲菜
(キャンプ時は入隊前体験参加)

私が入隊体験をしたいなと思った理由は、ボーイスカウトの活動内容に興味を持ったからです。野外活動や奉仕活動など、普段の生活ではできない体験をしてみたいと思ったからです。初めての体験は、日蓮宗キャンポリーでした。

1日目の“ポイントラリー”では、地図を見ても自分がどこに居るか分からなくて大変だったけど、走り回ってポイントをため、見事私達が一位でゴールできました。スカウト皆が真剣だったので一位になれました。まさに天にものぼる思いでした。

お寺やお経にも興味があったので、楽しみでした。お経の意味も教えてもらい、いつもお釈迦様に見守られている気持ちで何かあった時は、お経を読んでみたいです。

みんなに大きなキャンプファイヤーは初めてだったのでびっくりしました。近づくと熱い大きな火の周りを大勢のスカウト達と歌って回っていつもと違う夜を過ごせた事は楽しかったです。

初めて会う人ばかりだったけど、男の子も女の子もゲームや活動ですぐに友達になれました。

今回思い切ってキャンポリーに挑戦できたことは良かったです。



静岡第14団 カブ隊 横尾 佑真

8/15～17まで日蓮宗スカウトキャンポリーがありました。今からぼくがそのキャンポリーで感じたことを紹介します。

まず、一番心に残ったことは2日目の夜にあった友情パーティーでした。なぜかというと、他の県の人たちが作ってくれた揚げ物やラーメンがとてもおいしかったからです。五回以上おかわりをしました。作ってくれた人たちに対して、とても感謝しています。

そして、そのあとのスタンツも盛り上がりしました。もちろん、その中に自分たちも入っていきました。自分たちのスタンツは、まあまあよかったですかなと思いました。

また、このキャンポリーで一番学んだことは、10分前行動です。ダンドリが早ければ早いほど楽しい時間が増えるんだなと感じました。

最後に、ぼくはこのスカウトキャンポリーでいろいろなことを学んで、知って、身につけました。ぼくは、また一つ成長した気がしました。





磐田地区 磐田第3団 合同キャンプ

令和7年8月9日(土)・10日(日)



磐田第3団 ボーイ隊 隊長 熊谷 正和

8月9日10日と磐田第3団合同キャンプが実に10年振りに実施されました。なかなかBS隊の野営と舎営が同時にできる場所、日程が合わず、これまで実施できずにいましたが、団委員長の強い意志で実施されました。

BS隊は自分が隊長になり初めての移動キャンプとなり、イベントとしてBS隊では初日の夜に「VS隊・BS隊・BS隊長の炒飯対決」と大営火を受持しました。炒飯対決は試食してもらったCS隊などに投票してもらい、なんとBS隊が優勝でした。営火のエールマスターはVSに任せました。世間でいう夏休み前半の日程だったので残念ながら班長が1日日帰りのみの参加、さらに日程全て雨の状況。小6スカウト3名中1スカウト1名

のみだったためまともなテント泊は初日のみとなっていました。川にも行けず、プログラムも悩んでいましたが、副長の即席天体模型やスカウトニーズにより手旗、ネッカリング作りと、なんとか思い出に残るキャンプになったかと思います。

本来BS隊の野営は3泊の大営火が基本なので自分のモチベーションが低迷していましたが、3泊めはジャンボリーや海外派遣経験者のRSが駆けつけて話もしてくれました。雨の中のスカウトだけの移動も楽しそうにしているスカウトの笑顔に救われました。「いつも思う、困った時はスカウトに聞く!しかばおのづと答えが出る」

伊豆地区合同くまキャンプ
みんなで作る
スカウト村

令和7年7月5日(土)・6日(日)
伊豆の国市野外活動センター

三島第5団 カブ隊 久保 悠士

2025年7月5日～6日に伊豆地区合同くまキャンプが開催されました。まず、1時からキャンプが始まり、開会式の後は、自分の組が決まりました。ぼくは3組で、後の話し合いで組長になりました。その後、昼食を食べ、スカウト村づくりをしました。テントに加えて日差しを防ぐためのブルーシートを上に敷いたのは、これまで初めてでした。この後、ランタン作りをしました。自分の組もかなりいいランタンを作っていましたと思いました。その後、メインロードの名前が決まり、名前は「スカウトタウンロード」に決まりました。この後、夕食を作りました。夕食は、タンドリーチキン、丸ごとキャベツ、缶飯でした。どれもとてもおいしかったです。2日目は、朝食ハイキングに行き、テントの徹営をしました。このくまキャンプで学べたことは、これまで一緒に活動していない団と初めて会ってから、1日か2日で友達になれるという友情があることです。このくまキャンプは楽しみながら、友情というものを学ばせるものだとと思いました。



大仁第1団 カブ隊 池田 菜希

わたしは、7月5日から6日にかけて合同のくまキャンプをやりました。わたしは、このキャンプで3つがんばったことやはんせいすることがありました。まずよかったことの1つ目は、はじめて会った人でもすぐ友達になれたことです。わたしは、キャンプへ行く前は友達ができるか不安でしたが、すぐに友達になれました。2つ目は、国つきこうのうをしたことです。わたしは、6日の日に閉会式で国つきこうのうをやりました。そのため、閉会式の前にたくさん練習をしました。本番は少ししつばいをしていましたが、けいけんをできてよかったです。反省することの1つ目はりょうりのかたづけを大人の方たちにやらせてしまったことです。次のキャンプでは、自分から取り組むようにがんばりたいです。

今回のキャンプをやって、たのしかったこともあたたし、反省することもありました。今回のキャンプも他の活動もボーイスカウトになる1歩としてがんばっていきたいです。



伊豆地区 カブ部門担当コミッショナー 鈴木 直子

伊豆地区では毎年7月に地区で合同くまキャンプを実施しています。ボーイ隊上進に向けて意欲の向上と地区的カブ隊の仲間が次のNSJやWSJの派遣隊の仲間となるであろうことを視野に入れながら、地区的仲間と交流をして、『とにかく友達になる』ことを目的に実施しています。今回のテーマは『みんなで作るスカウト村』、広い敷地の中にくまスカウトだけの素敵なテント村ができました。



伊東第5団 カブ隊 利田 有彩

私のキャンプの思い出は4個あります。

1つ目は、友達作りです。組で旗作りをする時に思い切って横にいた女の子に話しかけました。そうしたら共通する物がたくさんあって初日からとても仲よくなりました。その後男子とも仲よくなりました。

2つ目は、夕食作りです。一人一人役わりを決め協力しながらごとキャベツやたきこみご飯、タンドリーチキンを作って食べました。外で食べるといつもどちらがう味がしました。

3つ目は、きもだめしです。きもだめしで学校を出たら最初の10秒はこわがっていたけれど、だんだんとおばけがかわいく見えてきて友達と、「このオバケかわいいね」と話しながら行きました。最後にちいかわみたいなキャラクターが書いてあるお守りをもらいました。前はこわかったのに今回のきもだめしはこわくありませんでした。

4つ目は、テントでねる時です。ねる時間になつてもねなかつたので、友達3人と外で星を見ながら遊びました。おにごっこや、隊長が来たらテントでねるふりをするなど楽しい時間をすごしました。山だったので星がよく見えました。日の出を見ようと思ったけれど、けつきよくねてしまつて見れませんでした。だけど夜にしか味わえないハラハラ、ワクワクが感じて楽しかったです。

2日間やってみて勉強したことや、楽しかったことがあります。勉強したことが、夕食メニューの作り方や、ランタンの作り方を教わって、楽しかったことがきもだめしや夜などでした。

次会ったら今までの事をたくさん話したいです。



三島第5団 カブ隊 高良 美結

7月5日～7月6日の2日間に大仁第1団、三島第5団、三島第14団、函南第2団などの6つの団のくまスカウトが集まってキャンプをしました。肝試しをしたり、自分でテントを立てたり、たくさん楽しいことをしたけど私は、特別に楽しかったと思っていますが2つあります。

1つ目は自炊です。なぜなら、みんなで力を合わせて作った、キャベツのコンソメスープとタンドリーチキンを食べた時にすごく美味しいくて、「これを自分たちが作ったんだ」という達成感があつて嬉しかったからです。

2つ目は空き缶やペットボトルを使ってランタンを作ったことです。理由はみんなと違うものを作れるか考えている間とてもワクワクして楽しかったからです。

ボーイになると班でキャンプをやろうとか自分で予定ややることを決めるのでクマキャンプよりももっともっと楽しいことができるかもしれないと思うとたのしみです。



大仁第1団 カブ隊 酒井 大輝

7月5日から7月6日、ちのっ子広場で行われた、僕にとって2回目のせつえいキャンプでした。初めは、いろいろ不安な事や、心配な事もあつたけど、とても楽しいキャンプでした。

まず1日目は、組旗作りをした。僕がいた組の名前は「シャイニングブルー」にしました。次にテントのせつえいをしました。テントがとんでもないようになつたのですが、そのペグがとても熱くて、とてもうつのが大変でした。次は夕食作りです。夕食は、丸ごとキャベツと、お肉とかんで作るご飯を食べました。夜は、ナイトプログラムで、きもだめしをしました。学校の体育館から、出て、ピッロが出ていた女の子の前で、なま首をあとしたりしていた人がいました。次はボンファイナーで、みんなで歌を歌つてとても楽しかったです。

このキャンプでたくさんの友達ができたりして、とても楽しかったし、また新しい発見もありました。これからも多くの人と、友達になれるように頑張ります。



富士宮地区

キャンポリー・ビーバー・カブデー

令和7年8月10日(日)~15日(金)

富士宮地区 ビーバー・カブデー

富士宮地区 副地区委員長 **若林 智子**

8月10日から15日まで富士宮市上井出青少年の家にて富士宮地区キャンポリーが開催される中、8月12日、「ビーバー・カブデー」が開催されました。今年は“めざせ!ボイスカウト ポケモントレーナー”により子どもたちが“ポケモントレーナー”を目指して、さまざまなゲームに挑戦しました。

当日は天候が不安定だったため、屋外と屋内に分かれた会場での開催となり、移動時間が想定より長くなる場面もありました。その影響で、すべてのゲームに参加できなかったグループもありましたが、それでもスカウトたちは笑顔を絶やさず、意欲的に取り組む姿が印象的でした。

ゲームはすべて指示通りに展開され、ポケモンの世界観を活かした個性的な内容ばかり。知っているポケモンが登場すると、スカウトたちは目を輝かせながら説明を始めるなど、仲間との交流も自然に生まれていました。

一方で、ポケモンに詳しくないスカウトにとっては、理解が難しい場面もあり、今後は事前にキャラクター紹介の時間を設けるなどの工夫が求められそうです。特に印象的だったのは、“先輩トレーナー役”的ボイスカウトたちが後輩を導く姿。役になりきりながら指導するその姿は頼もしく、ポケモンの力を借りて自然なリーダーシップが育まれていることを感じました。子どもたちの成長と笑顔があふれる一日となった今回のイベント。今後も楽しさの中に学びを取り入れた活動を続けていきたいと思います。



ビーバー・カブデー感想

富士宮第25団 カブ隊

- チームで協力して、楽しむことが出来た。
- ボーイの活動の一部が見れて良かった。(佐々木梨帆)
- ポイント毎でのボーイスカウトの説明が、一つ一つ丁寧でわかりやすかったです。(平山真依子)
- グループごと協力してミッションを解くのが面白かったです!(松永旭陽)
- ボーイスカウトのマシュマロが楽しかったです。(宮下俊太郎)
- ダンボールで手裏剣を作り、その手裏剣を使ってポケモンを見つけたところが楽しかったです。(遠藤由麻)
- たくさんのミッション集めの後に、ご褒美マシュマロ焼きがあつた事がとても嬉しかった。(河東健心)



富士宮第22団 カブ隊

- モンキー・ブリッジが楽しかった。(長畠きさ)
- とっても楽しかった。カイリキーかっこよかったです。
- ポケモンあまりかんけいなかった。(佐々木駿)
- いろいろなポケモンにあえてうれしかった。(足立琥太郎)
- ポケモンをさがしたりするのがたのしかった。
- やきましょまろがおいしかった。(伊藤天音)
- モンキー・ブリッジが楽しかった。(伊藤いすず)
- 年上の人と、ポケモントレーナーになるための冒険が出来て楽しかったです。(市川英幸)



富士宮第25団 ビーバー隊

- ポケモンをさがすのがたのしかったよ。さいごは、マシュマロをやいてたべたのがとてもおいしくてうれしかった。(かとう きよ)

富士宮第21団 カブ隊

- ぼくは、お兄ちゃんとは、ちがって日がえりだったけど、ほかの団の人たちと交流できたりいろんなことが学べてよかったです。(有賀悠馬)

富士宮第22団 ビーバー隊

- 私はポケモン探しのゲームが1番楽しかったよ。ポケモンを3個も見つけて、シールを貼れたのが嬉しかったよ。(市川なほ)

地区キャンポリーを終えて

富士宮地区 コミッショナー 井出 輝彦

8月10日から15日まで5泊6日の富士宮地区キャンポリーを開催しました。

テーマは「平和な未来を創造(想像)しよう」、戦後80年の節目の年を迎え、スカウトが今、平和な時代に生きていることに感謝し、これからも平和であり続けるために自分たちはどうすればいいのか、何ができるのか考えて欲しいという想いを込めました。

そしてテーマとは別に、普段少人数での活動を余儀なくされているスカウトが他の団のスカウトと交流しながら、班制度に基づき競い合う活動と長期野営を体験することで、さらなる成長を促しつつ、19NSJへの参加意欲を高めるという目的もありました。参加スカウトの大半が長期野営未経験で、且つ半数が上進したての小6スカウトで最初は未熟さが目立ちましたが、日を追うごとに一人ひとりが自分の役割を理解し、班で協力して行動するようになっていきました。日々の成長を目の当たりにしてスカウト活動において長期野営を行う必要性を改めて実感しました。

大会を通してスカウトのみならず隊指導者も得られたものが多く、様々な気づきもあったと思います。今回、準備不足、人員不足、スキル不足等々、課題も多くありましたが、脱落者を出さず、事故やケガもなく無事に終えられたことは非常に良かったです。そして、奉仕協力していただいた地区関係者のみなさまに感謝します。



隊長 森 栄徳

スカウト達が5泊6日毎日成長していく姿を見て、ボーイ年代の成長の早さにとても驚きました。

雨が降り薪に火が付かないと苦労していれば隣の班が助けに入り、自由時間では自分たちで道具を作つて野球を始め、元気にとっても楽しそうに過ごしてくれて嬉しかったです。

スカウト同士の絆を大切に、これからも活動を期待しています。

副長 西村 駿汰

スカウト達に怪我や脱落がなく、5泊6日の地区キャンポリーを終えることができたことが一番よかったです。

スカウトからも、楽しかったや自信がついたという話がありましたが、参加させることができてよかったです。

副長 松田 孝雄

普段、自隊だけで少人数の活動ばかりでしたが、今回こういう機会の中でザ・ボーイスカウトというキャンプが行えた事はスカウト達にとっても、指導者という立場であっても未来に繋がる良い機会になった。

内要としては多くの課題がスカウト、指導者ともに見えたが、結果的には大変良かったと思います。

富士宮第21団 ボーイ隊 有賀 友哉

初めての地区キャンポリー

ぼくは、夏休み中に5泊6日の地区キャンポリーに行ってきました。地区キャンポリーでは、立ちかまどを作り、料理をしたりハイキングをしたりしました。普段できない、貴重な体験をできてよかったです。

富士宮第21団 ボーイ隊 有賀 陸登

僕は、初めて、地区キャンポリーに参加して、たくさんのことを学びました。そして、班長として、みんなをまとめたり、協力することの大切さを知りました。この、5泊6日の宿泊の経験を生かして、これからも、ボーイスカウトを頑張ります。

富士宮第5団 ボーイ隊 安田 彩人

他のボーイスカウト達と協力できて楽しかったです。

富士宮第5団 ボーイ隊 安田 崇志

疲れただけど楽しかったです。

富士宮第5団 ボーイ隊 伊藤 元輝

初めての長期キャンプで、いつもよりたくさんの仲間と色々なことを学び、勉強になることがたくさんありました。楽しかったです。

富士宮第25団 ローバー隊 佐野 雄一

今回ローバースカウトとして、キャンポリーに参加しました。ボーイ隊の上班につきながら、隊運営にも携わり、視点を変えながら臨機応変に対応することが難点でした。

キャンポリー自体が7年前に参加した石川の珠洲の17NSJ以来であり、参加隊で参加した頃が懐かしく、後輩スカウトを見ると、まるで7年前の自分を見ているようでした。

今回はキャンポリーの半分の日程が雨でしたが、雨の中でのスカウティングも、自身が雨対策をする点、そして雨対策を後輩スカウトにアドバイスする点も含め、学びが多くありました。特に印象強かったのは、ローバースカウトが主催したベンチャーナイトであり、企画の内容から全て考え、後輩スカウトに活動してもらうというのは達成感もあり、もちろん反省、学習もありました。

今回のキャンポリーで得た経験、そして反省や学びを、日々の生活からスカウティングに活かしていくよう精進したいと思います。

富士宮第25団 ボーイ隊 稲葉 尊

5泊もすると聞いて最初は心配でしたが、1泊、2泊と過ごすうちに心配はなくなりどんどん楽しくなってきました。

自由に工作をしたり、日本1チャレンジしたり様々なことをやつたり見たりしました。

6日間大変でしたがこの夏一番のいい体験だったと思います。日程を変えてまたやりたいです。

富士宮第25団 ボーイ隊 小野田 俊介

地区キャンポリーは富士宮市内のボーイスカウトが集まって5泊6日の日程で行われました。他の団のスカウトと一緒に2つの班に分かれて活動しました。

僕はこのキャンプでたくさんの経験をしました。

最初の日は雨でテントの床が濡れてしまって大変な思いをしました。ロープワークをやつたり、自分たちで立ちかまどを作りそでご飯を作つたり、地図を読む勉強をして、早く地図を読む勉強をして、早く地図を読むことができるようになつたり、グループに分かれて、どのグループが早く火をあこせるか、早く班旗立てを作れるか競争したり、たくさんのことをやりました。

最初は雨で始まったキャンポリーも最後の日は晴れてテントを乾かせて良かったです。

僕はこのキャンポリーで、他の団のスカウトとも仲良くなれたり、大変なこともいっぱいあったけど、たくさん体験できたり、最後まで頑張って参加できただけが一番うれしかったです。

富士宮第25団 ボーイ隊 平山 和季

1泊だけでしたが、他の団の仲間達と協力して食事を作つたり、火を起したり、とても良い体験が出来ました。

またやりたいです。



清水地区 地区コミッショナー 藤田めぐみ

9月13日から15日までの3日間、三島市立箱根の里を会場として、清水地区・地区キャンポリー2025を開催しました。CSとBSはそれぞれ2泊3日の舎営と野営、BVSは14日に日帰りで「ビーバーデー」として活動しました。

日頃清水で活動しているスカウトが、「たまたま箱根で活動する」のではなく、地区キャンポリーとして箱根で一堂に会する意義を持たせたプログラムとするところに大変苦慮しました。

CS部門のテーマは「めざせ!山の神」。「箱根の山々の神」と土地のイメージ「箱根駿伝」をかけたテーマとし、全部門共通のキャンドルファイアでは厳肅な雰囲気の中、本格的に扮装した神を登場させました。

各部門の運営面においては、まず若い指導者と経験豊富な指導者でタスクチームを作り、隊運営の方向性が定まったところで各隊の隊指導者を交えた会議を重ね当日を迎ました。

この方法は、日頃少人数隊で一人で隊運営を行っている隊指導者のプログラムプロセスの学びなおしにも繋がりました。

BS部門においては初日の大雨と強風で、テントの浸水、薪が湿気て火がつかない等の多々アクシデントに直面しつつも、その荒天がスカウトをより一層成長させることを実感した地区キャンポリーとなりました。





浜松第30団 カブ隊 隊長 鈴木奈津子

2025年8月15日～17日、2泊3日で今期最後の活動である夏キャンを「静岡県立三ヶ日青年の家」にて行いました。ここでしか体験できない特別なカヌー!「ダブルハルカヌー」に13名のカブスカウトが挑戦しました!三ヶ日青年の家の所員さんと念入りな打ち合わせ、安全面の対策、試乗や下見を行い、海上での心地良い風と、浜名湖の穏やかな波を肌で感じ、三ヶ日の自然を満喫することができました。ダブルハルカヌーは、年齢や体格に関わらず、みんなが楽しめるように設計されていて、パドルも軽量化!小柄なカブスカウトでも安心して楽しむことができました。仲間と協力し合って漕ぐパドルは、30団のネッカのロゴマークと同じです。

「Paddle your own canoe」(自分のカヌーは自分で漕げ)とBP(ペーデン=パウエル)卿の言葉もあるように、今回仲間と一緒に息を合わせて、声を出し合って漕ぐことで、勢いよくカヌーが進む感覚をスカウトは体で感じ、心地良さを実感したことだと思います。仲間と

浜松第30団

カブ隊! 海に出る!

令和7年8月15日(金)～17日(日)
静岡県立三ヶ日青年の家



一緒に協力し合うことの大切さ、楽しさ、心地良さを体験から学び、仲間との絆がより一層深まった夏キャンでした。

今後スカウトも様々な課題や困難に立ち向かう時が来ると思いますが、大海を知って己を知るきっかけになります。海に出た経験を思い出して今後も挑戦することを忘れないで欲しいと思います。

今回の夏キャンを最後に、5年間努めてきたカブ隊長を退きますが、スカウトと一緒に活動してきた数々の経験は、自分自身への成長にも繋がることができ、非常に良い経験をさせていただきました。浜松第30団のこれから発展とスカウトの成長を願って!「弥栄!弥栄!弥栄!」

富士地区 2025ラトビア友好プロジェクト

令和7年8月12日(火)～8月25日(月)

2025ラトビア友好プロジェクトスケジュール

- 8月12日(火) 出迎え(黒川) [13:05] 芝川古民家へ
- 8月13日(水) 2025ラトビア友好事業開会セレモニー [10:00～]
富士山遺構探訪／世界遺産センター
浅間神社本宮等
- 8月14日(木) ラフティング[午前]／交流会 BBQ[午後]
- 8月15日(金) 日蓮宗スカウトキャンポリー(開会式 [13:00])
- 8月16日(土) 日蓮宗スカウトキャンポリー
(伊東・仏源寺参拝／交流パーティー)
- 8月17日(日) 日蓮宗スカウトキャンポリー
ホームステー(ホストファミリー引き渡し)
- 8月18日(月) 市長表敬訪問 [16:00～]
- 8月19日(火)
- 8月20日(水) 東京観光(浅草エリア、渋谷エリア)
ラトビア大使館訪問／池上本門寺宿泊
- 8月21日(木) 東京観光(チームラボ他)
ホームステー(ホストファミリー引き渡し)
- 8月22日(金) 富士登山(プリンスルート:ガイド川島さん)
- 8月23日(土) 日本文化体験:GS主催(茶道[午前]／己書[午後])
吉永まちづくりセンター
- 8月24日(日)
- 8月25日(月) 送別会(昼食)
新富士 [18:08] →セントレア [AY080 / 22:50]

ボイスカウト富士地区ではラトビア友好プロジェクトを行っております。

歴史的には、富士地区の川島前交際委員長が米国の大大学へ留学した際、1940年前後のソ連軍のラトビア侵攻をさけ米国へ亡命していたボイスカウト最高章のシルバーウルフ章をもつラジン氏と1968年に出会い、お互いにスカウトである事をきっかけに親交を深めました。ラジン氏没後川島氏はウルフ章を遺品として託されました。

1991年ラトビアが自由独立後、シルバーウルフ章の返還を計画し、2007年のイギリスで開催された世界ジャンボリーにおいて返還式典を実施致しました。以来、両国のベンチャーローバー年代のスカウトが交互に相手国を訪問し、お互いの国の生活・文化・伝統・自然等を理解し、友情の絆を作り上げることを目的に日本ラトビア友好プロジェクトを行っております。



「市町表敬訪問」令和7年8月20日(水)静岡新聞掲載



富士第10団 ベンチャーチー隊 常磐 真帆

8月13日より、富士地区的ラトビア友好事業が始まりました。その中で、8月15日から17日まで、ラトビアのスカウトと共に、第4回日蓮宗スカウトキャンポリーに参加してきました。英語に不安がありましたが、お互いに理解しあい、ラトビア語や料理を教わるなど貴重な交流ができました。地区のラトビア派遣が来年実施されるのであれば参加したいと思います。



富士第10団 ベンチャーチー隊 山下 舞稀

今年度の富士地区的ラトビア友好事業は8月13日より始まりました。

8月22日はラトビアのスカウトと共に富士山宝永山登山に行きました。私は、外国人の人と登山をするのは初めてで、最初は会話が上手くできませんでしたが、登るにつれて会話が楽しくすることができました。普段できない素晴らしい体験をすることができました。



「体験コーナー」を盛り上げました

静岡地区 静岡第7団 団委員長 山下 芳寛

6月29日(日) 静岡ガスの「まなBO-SAI」という防災イベントに静岡地区のボーイ隊がブースの運営として奉仕をしました。

ボーイ隊のブースは「火起こし体験」、「マッチを使って空き缶ストーブに火を着けよう」、「防災すごろく」の3種類で、他には「AEDの体験」、「消火器体験」、「非常食の販売」など防災に関する様々な、ブースがありました。来場の親子連れはタープ下でそれぞれのブースを熱心に体験してくれました。「火起こし」ではなかなか火を起こすことはできませんでしたがそれでも諦めることなく頑張るお子さんの姿を見ることができました。

ブースの受付でボーイスカウトのリーフレットや各団の活動案内を保護者に配布し興味のありそうな保護者にはスカウト活動の目的や制度などを積極的に説明をし拡充にも努めました。また静岡第26団の「トランペット鼓隊」の演奏がイベントに華を添えてくれました。

なかなか露出の少ないスカウト活動ですが少しでも多くの人の目に触れることが拡充に繋がると思いますのでこれからも地道に様々なイベントに参加したいと考えています。





いつも元気だっ! ビーバーだより

たくさんほった「じゃがいも」おいしかった

沼駿地区 沼津第1団 ビーバー隊 ほり口まなか

ビーバーのかつどうで、たいちようの家のはたけで、じゃがいもほりをしました。じゅんびをしてシャベルをもってはたけに行って土をほりました。

なかなかほれないので力を入れてたくさんほりました。ほったじゃがいもをつかって、じゃがバターとフライドポテトをつくってくれました。

じゃがいもはにがてだけれど、とれたてでおいしかったです。じゃがいものはっぱとお花ははじめて見ました。キュウリもとて水でひやしてたべました。これからビーバーでまだできないけどキャンプをして、とまってみたいです。



「ささぶね」はじめてつくってあそんだよ

沼駿地区 沼津第1団 ビーバー隊 ちばたつや

ビーバースカウトで一ばんのしかった活どうは川あそびです。ささぶねをつくって川にうかべてきようそうしました。



スカウトをはじめて、はじめてのけいけんがたくさんできて、たのしみがふえました。これからやりたいことは、車やふね、ひこうきなどの工作をしてみたいです。



カブつうしん CUB SCOUT

みんなで行った水族館

浜松東地区 浜松第6団 カブ隊 中村 吏来

ぼくは8月17日に、6団のみんなでバスを貸し切って名古屋港水族館へ行きました。一番楽しみにしていたのはウミガメで、赤ちゃんウミガメや大きなウミガメを見ることができました。アカウミガメは知っていたけれど、アオウミガメがいることを知らなかったので、とてもびっくりしました。水族館では、ウミガメの赤ちゃんといっしょに写真を撮り、

本物の甲羅にさわってみて、めっちゃドキドキしました。

そして、ウミガメが絶滅の危機にあると知り、悔しい気持ちになりました。これからは生き物が絶滅しないように、保護活動をやってみたいと思います。

カブ隊で名古屋水族館に行って

浜松東地区 浜松第6団 カブ隊 矢野 雅也

夏休みも残り少し。イルカのショーとシャチを見るのが樂しみだったけど、行ってみたら、大きすぎるカメと、小さすぎるカメの赤ちゃんがいたりして、観察するものが沢山すぎて、何周も館内を回りました。

家に帰ってから、思い出すのは、ウロコがきれいなノーザンバラモンディ。オーストラリア肺魚もカッコよくて、イルカやシャチよりも印象的でした。夏休みの絵日記にも書きました。

水族館のひとからマイクロプラスチックが世界の海で魚やカメに悪い影響を与えると教えてもらいました。僕は父と福田にサーフィンに行きます。マイクロプラスチックはよく浜辺で見るので知っていましたが、これが海の生き物に悪い影響があることが分かりました。

海に行くと、取りきれない量のゴミがあるけれど、一つでも多く拾って帰ろうと思いました。



幻の滝をさがして

富士地区 富士第9団 カブ隊 片桐 茜



今年は『富士山と水』というテーマで活動しています。5月は幻の滝と小富士に行きました。須走登山口5合目を出発し、小富士に向かいました。犬、亀に似た岩やカラマツや、コケモモなどの植物がたくさんあり、自然を感じることができました。

小富士についたとき、僕の家から見るよりも富士山と雲が近かったので、驚きました。5合目に戻りカブ弁を食べ、幻の滝へ向かいました。幻の滝は一年に一か月だけ富士山の雪解け水によってできているようです。この滝へ向かう途中、植物が無くなってきて小石と岩ばかりで、何度も転びそうになりました。強風がふいて飛ばされそうになりました。幻の滝が見えた時、僕はやっと着いたと思いました。滝の水は冷たかったです。この滝の下で遊んだのがとても楽しかったです。毎月いろいろな経験ができるので楽しめます。



思い出のカヌー

浜松東地区 浜松第6団 ボーイ隊 渡邊 恵奈

私はカヌーで阿多古川を下りました。景色がとてもきれいで、水が冷たくてとても気持ちよかったです。カヌーだと水深が浅くて進めないところもあったけど、深いところではスムーズに行けて楽しかったです。水遊びの人がいっぱいいるところでは人に当たらないか不安だったけど、カヌーを押してくれたり、「がんばってね」と声をかけてくれる人がいてうれしく思いました。

カヌーは久しぶりであまり上手に操作できなかったけど、転覆もしないで人にもぶつからずに安全にできました。河原にはBBQなどしている人がたくさんいて、食べたくなってしまうほどいい匂いがしていました。

私のカヌーはなぜか回転してしまって、仲間のカヌーとぶつかりそうになりましたが、そういうときには仲間にカヌーを押してもらって元に戻すことができました。川にせり出している竹やぶをうまくかわすこともできました。

前のカヌーが廻ってしまうところでは、私のカヌーも廻ってしまうとわかりました。今回のカヌーを終えて楽しかったこと、大変だったことなどたくさんあったけど、またみんなでカヌーをしたいなと思いました。



地区キャンポリーに参加しました

富士宮地区 富士宮第22団 ボーイ隊 市川 亮太

8月10日から15日に富士宮地区キャンポリーがありました。今回のキャンポリーのテーマは「平和な未来を創造(想像)しよう」でした。はじめて班の仲間と会った時には、話したことがない人がたくさんいたので、少し緊張しました。ですが、すぐ同じ班になった仲間とコミュニケーションをとって、協力して設営や調理を行いました。

1日目の夜には歓迎の營火があり、それぞれがキャンポリーで頑張りたいことなどを言い合いました。火をつけるのがうまくいかないことがあったり、調理を上手く出来なかったこともましたが、仲間と協力することを心がけながら生活することができました。また、班旗立てという日本一チャレンジを行い、8月14日の時点では、日本一になることができました。5日目には、大營火を行い、班同士で歌やスタンツを行ったり、ダンスをしたりして楽しみました。

今年の8月15日は、太平洋戦争が終わってから、80年の年でした。今回のキャンポリーのテーマである、「平和な未来を創造(想像)しよう」を通して、平和な世界を作るためには、戦争の歴史や遺跡などを後世に伝えていくことが大事だと考えることができました。

5泊6日を通して、様々なことを学ぶことができました。また、他の団のスカウトとも友達になることができました。今回のキャンポリーで学んだことを、これから活動でもいかしていきたいです。



ローバー隊夏期キャンプ

磐田地区 掛川第2団 ローバー隊 安達 太陽

台風が近づいてきている中でのキャンプだったけれど雨対策を行ったことで不便なくキャンプを行うことができ、楽しむことが出来た。

干物や明太子などを活用した料理をしたり、今までやったことのなかったダイビングに挑戦したりして充実した3日間を過ごすことが出来て良かった。ただ、ダイビングは少し濁った海の中での挑戦になってしまったので次は雨の降ってない中で挑戦したいと感じた。



磐田地区 掛川第2団 ローバー隊 斎木 太壱

私達は大瀬崎でのスクーバダイビングを体験することを主たる目的として2泊3日のキャンプを行いました。

私はダイビングどころか海に行くこと自体初めてでしたが海に潜ることで海の生物を間近で観察することができ、とても興味深い体験となりました。

キャンプそのものは生憎と台風の接近により大雨で計画の変更なども生じましたが、それも含めてよい経験となつたと思います。



ローバー隊夏期キャンプ

磐田地区 掛川第2団 ローバー隊 豊田 遥矢

先日の夏期キャンプでは、台風という悪天候の中でしたが怪我無く終わることができてよかったです。サイトの雨対策が不十分で荷物が少し濡れてしまう場面があったため次のキャンプでは雨が降っても大丈夫なように雨対策を見直しておきたいです。

スクーバダイビングでは台風の雨の中ではありましたか、海の中の生き物たちを観察することができ、とても貴重な体験になりました。

指導者だより

スカウトの日の活動

浜松地区 浜松第1団 ボーイ隊 隊長 河合 寿

ボーイスカウト「スカウトの日」は、9月の第3月曜日に設定されています。国民の祝日「敬老の日」に該当します。国民の祝日が職場の休日とならない企業もある（私の会社は出勤日）為、前後の週末の土日を使って活動されていると思います。そこで、我が団の活動を紹介させていただきます。

前年度は、スカウトの日の奉仕活動と釣りの活動と一緒に実施しました。今年度も同様に奉仕活動と釣りが計画されています。奉仕活動の場所は、浜松市中央区舞阪町弁天島にある「乃木大将の胸像」の広場です。写真は現在の風景ですが、周辺の建物等の雰囲気が変わっています。西隣には「弁天島津波避難マウンド」が設置されていますが、25年前までは水産試験場（現在の浜名湖体験学習施設ウォットの前施設）に取り囲まれており、周辺は薄暗い雰囲気でした。この地を訪ると、胸像のお顔を隠してしまうほどに生い茂った松の木を、20年くらい前に切った記憶が蘇ります。

この広場の西の先100m程度進むと浜名湖の湖岸があり、移動距離が少ない場所で釣りを楽しむことが出来ます。（釣果は別として）天気が良いときは、一般の方が昼夜問わず釣りをしている人が散見できます。釣りスポットになっているのでしょうか。

スカウト活動は、楽しいことも苦労することも経験によって学びます。同じ活動でも、年代によって感じ方、捉え方、行動内容が変わります。スカウト人口は減少傾向にありますが、絶やさず承継できるように、活動に取り組んでいきたいと思います。





マスコトコーナー

マスコミ（新聞・雑誌）に掲載された“スカウト活動の記事”を紹介します。

各地区・団で、新聞又は雑誌などに掲載された記事がございましたらご応募下さい。
詳しくは県連事務局まで

令和7年
6月13日(金)
富士ニュース
掲載



令和7年
7月25日(金)
静岡新聞
掲載



令和7年
6月29日(日)
中日新聞
掲載



令和7年
9月8日(月)
静岡新聞
掲載



各地区・団で、新聞又は雑誌などに掲載された記事がございましたらご応募下さい。詳しくは県連事務局まで



各章に向かって、がんばろう!!

受章者を紹介致します!

ボーイスカウトの進歩制度とは、スカウトの成長の目標となる課目を設定し、進級というステップで、スカウトが発達段階に応じて成長できるようにした制度です。ボーイスカウト隊に入隊するとまず初級スカウト章を取得して段階的に進級を進めます。

ボーイスカウト部門

●**1級スカウト章**は高度なスカウト技能や、宿泊を伴うプロジェクト運営、地域への貢献や後輩への指導ができます。

地区名	団名	隊	氏名	進級年月日
沼駿地区	裾野第3団	ボーイ隊	大塚 隆康	2025年 5月18日
沼駿地区	裾野第3団	ボーイ隊	菅谷 文祐	2025年 5月18日
沼駿地区	裾野第3団	ボーイ隊	松本 健	2025年 5月18日
三島地区	三島第5団	ボーイ隊	段原 唯	2024年12月 8日
三島地区	三島第5団	ボーイ隊	斎藤 鈴奈	2025年 3月23日
三島地区	三島第5団	ボーイ隊	江川 陽香	2025年 3月23日

●**菊スカウト章**は高度なスカウト技能の他、ボーイスカウト隊の中の活動で、ボランティア活動や野外活動での更なるスキルが認められたスカウトです。

地区名	団名	隊	氏名	進級年月日
浜松地区	浜松第12団	ボーイ隊	高橋 壮丞	2025年 6月17日
浜松地区	浜松第12団	ボーイ隊	梶村 琉莉	2025年 6月17日
静岡地区	静岡第14団	ボーイ隊	中村 夕結	2025年 6月15日
浜松東地区	浜松第30団	ボーイ隊	奥村 汐里	2025年 8月30日
伊豆地区	三島第5団	ボーイ隊	野田 千晶	2025年 4月28日
伊豆地区	三島第5団	ボーイ隊	木村 紗夕	2025年 9月 4日
静岡地区	静岡第14団	ボーイ隊	高森 奏太	2025年 9月 9日
静岡地区	静岡第14団	ボーイ隊	南條 稔太	2025年 9月 9日

ベンチャースカウト部門

●**隼スカウト章**はスカウト技能を十分に役立てることができ、ジュニアリーダーとしての基本的な隊運営の知識を有し、健全な体と精神を身につけたスカウトです。

地区名	団名	隊	氏名	進級年月日
沼駿地区	沼津第1団	ベンチャースカウト	芦川 陽星	2025年 9月 2日

ボーイスカウトへのお問い合わせ・入隊希望は

ボーイスカウト静岡県連盟事務局(Tel.054-255-6185)まで

ホームページもご覧ください。<https://bs-shizuoka.com/General/>

編集
日記

県内各地区の団・隊はこの夏も楽しく活発な活動を行ないました。どの団もスカウトたちが安全に、そして充実した時間が過ごせるよう、指導者たちが工夫を凝らしたプログラムを実施しました。この夏に培った経験はスカウトたちの成長に大きく繋がることでしょう。「たちばな」では皆様からの活動取材依頼をお待ちしております。またご意見・掲載希望情報など県連事務局までお寄せ下さいますようお願い致します。

広報「たちばな」編集部 杉山文朗

広 報 “たちばな” 2025年10月

発行所 一般社団法人 日本ボーイスカウト静岡県連盟
〒420-0839 静岡県静岡市葵区鷹匠1-12-1
静鉄鷹匠青葉園ビル305号
TEL054-255-6185 FAX054-204-0773
<https://bs-shizuoka.com/General/>

編集責任者 総務委員長 南條 順子
印 刷 三富印刷株式会社
静岡県浜松市中央区上新屋町30-1 TEL053-467-4678
発行部数 2,650部

ボイスカウト運動にご支援くださった皆様です。令和7年7月～8月

【日本連盟維持会費】

大須賀和美	深津智重	大石稔	芹澤秀樹
土山和雅	勝又啓子	山崎茂樹	山本真一
高橋謙一	鈴木隆春	B.S.静岡地区	【県連盟賛助会費】
川島一郎	鈴木孝治	大澤晶	川村悦子
村松武博	館正義	金森啓二	大澤晶
	太田浩三郎	上條猛	く以上敬称略

たくさんの笑顔をひろげたい、わたしたちはスカウト活動を応援しています。



遠州鉄道株式会社 旅行営業課
TEL.053-457-6470 (受付時間9:00～18:00)
FAX.053-457-6477 (※土・日・祝日は休業日となります)

二輪・四輪販売

車検

土屋輪業

損保ジャパン・AIG損保 代理店

TEL.055-921-3991

FAX.055-921-2497

(営業時間9:00～18:00)日曜・祝祭日は休業日となります

一般社団法人 中部電気管理技術者協会会員

橋本電気保安管理事務所

代表者 橋本 健治

電気設備・太陽光発電所・水力発電所保安管理業務
住所:静岡市清水区駒越東町3番5号

掲載サイズ 横80mm

たちばなに広告を載せませんか?

掲載企業・団体募集中!

※広報“たちばな”的広告に関するお問い合わせはこちらまで。

TEL/054-255-6185

ボイスカウト静岡県連盟事務局

2026年
夏季!

『広島県神石高原町』にて日本スカウトジャンボリーが開催されます!

会場

広島県
神石高原町

神石高原町は広島県東部、標高約500mの中国山地に位置し、人口約8,000人、381km²の森林に囲まれた高原の町です。

広島県福山市の中心地・JR福山駅から約38km山陽自動車道福山東インターから約36km、いずれからも国道182号を経由して車で1時間弱。

中国自動車道の東城インターから車で約27km、30分。

会期

2026年(令和8年) 6泊7日間
8月4日(火)～10日(月)

参加者は入場から退場まで6泊7日間をキャンプ生活で過ごします。運営スタッフは参加者より2日前に入場し、1日後に退場するので9泊10日間を基本とします。

【参加者】

ボイスカウト及びベンチャー スカウトを中心とした参加隊と奉仕スタッフ、8,000人規模で開催し、青年・成人の大会運営スタッフにより運営します。参加者以外にも会場に訪れる見学者の受け入れを予定しています。

【ジャンボリー最新情報サイト】<https://19nsj.scout.or.jp/>

大会テーマソングが9月1日に発表されました。上記のサイトから聞くことも可能です。